

# ネットワークアンケート ②

糖尿尿ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

## Q. 保険適用外の血糖自己測定に賛成ですか？

今回のネットワークアンケートでは、保険適用外の血糖自己測定(SMBG)をテーマに取り上げました。現在、インスリン療法を行っている場合に限って保険が適用されるSMBG。その有用性は、インスリン療法以外の患者さんの治療においても低くないものと思われるのですが、実情はどうなのでしょう？

〔回答数：医療スタッフ303（医師62、薬剤師58、看護師72、管理栄養士32、その他76。うち糖尿病療養指導士74）、患者さんやその家族607（食事療法を行っている406、運動療法を行っている317、経口薬を服用している188、インスリン療法を行っている388。重複回答）〕

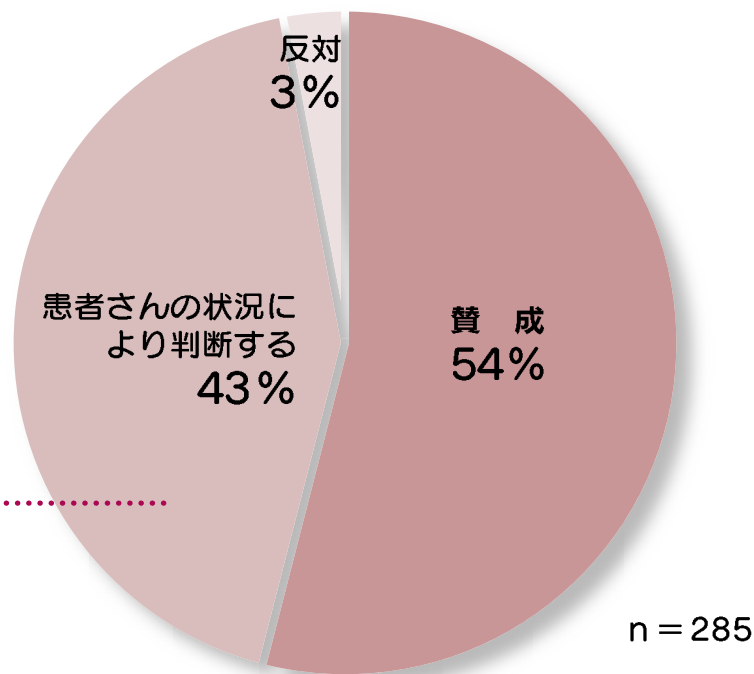
保険外でのSMBGに過半数が賛成で、「患者さんの状況次第」という条件付きを含めれば、ほぼ100%の医療スタッフが賛成という結果でした。アンケートの回答者の多くは多数の糖尿病患者を診ている医療スタッフと推測されますので、この結果が国内の現状を即映し出したものとは言えませんが、少なくとも反対意見は少数派と言えるでしょう。その少数派の人も、反対する理由はほとんどが患者さんの経済的負担を心配したもので、SMBG導入自体を否定する声はありませんでした。

## Q. 血糖自己測定の保険適用範囲を広げるべきだと思いますか？

適用範囲拡大賛成派が多数を占めました。それぞれの記述回答を紹介します。

**〔適用拡大を〕** SU薬服用者に対し自覚症状だけで低血糖を判断させるのは適当でない / SU薬服用者またはHbA<sub>1c</sub> 8%以上なら月30回程度まで / 必要以上に測定しているインスリン療法の患者さんがいる一方でその他の患者さんに全く適用されないのは... / 将来的には医療費抑制につ

糖尿病ネットワーク <http://www.dm-net.co.jp/>



## Q. どんな場合に賛成しますか？（複数回答） n = 141

経口血糖降下薬を服用している	46%
指導しても血糖コントロールが改善しない	60%
仕事などのため生活リズムが一定でない	66%
患者さん自身が希望したとき	81%
その他	17%

広げた方が良い	83%
現状のままが良い	17%

n = 286

ながら / インスリン療法の場合も月あたりの上限撤廃を / 保険者に対し有用性の疫学的データを示す必要はある

**〔現状維持を〕** 保険制度の現状から適用拡大は厳しい / 医療費増大に見合う効果は期待できない / チップの値段が下がればよい / 希望する患者さんは少ないが興味本位で終わることが多い / 自費のほうで治療への自覚が高まる

「患者さん自身の希望」を条件とするケースが8割に上りました。保険外の出費を伴う以上、これは当然かもれません。しかし「経口薬の服用」を賛成の条件とする回答は半数以下でした。経口薬による低血糖も稀ではないことを勘案すると、この数字が妥当なのか否か、意見が分かれるところかもしれません。

『その他』の記述回答では、「経済的に負担にならないこと」「理解度が高く測定結果を治療に生かせる患者さん」などが多数みられました。また「治療の動機付けに利用する」「血糖降下薬を使用するときには当然必要」という積極的賛成に近いものが複数ある一方で、「コストほどには効果的でなく、患者さんの希望のみで始めるべきでない。ほとんどは尿糖試験紙で十分」という消極的賛成の意見もあります。「基本的には賛成。ただし費用負担がネック」という現状が、どの設問の回答にも滲み出ているようです。